様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年 １０ 月 １９ 日現在

機関番号：１３８０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2015
課題番号：２４６６０００００

研究課題名（和文）母親の清潔なおしゃれ意識とチャイルド・マルトリートメント予防に関する新機軸研究

研究課題名（英文）Study on relationship between the fashion sense of mothers and their perception of child maltreatment

研究代表者
安田　孝子（YASUDA, TAKAKO）

浜松医科大学・医学部・教授

研究者番号：３０３７７７３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：日本の静岡県内の地方都市にいる18か月の子どもを養育している母親398人におしゃれに関する意識と子育てに関する認識に関して自記式質問票を2014年9月から2015年10月までに配布した。
「メイクをすると気分がよい」と回答した母親の割合は78.9%であった。それらの母親は「おしゃれは自分らしさを表現する」（r=.386, P<.001）、「子どもを持って今までにないくらい愛する気持ちが強くなった」（r=.234, P<.001）と弱い関連がみられた。メイクをすると気分がよい母親は自分自身への関心も持ちながら、子どもへの愛情が強くなったと感じていて、前向きな気持ちで養育していると示唆された。

研究成果の概要（英文）：This survey was conducted as a cross-sectional study of mothers in a suburban city, Shizuoka prefecture, Japan, from September, 2014 to October, 2015. Self-administered questionnaires were distributed to 398 mothers at the time of the 18-month child health checkup. There are the question items such as "When you make up, do you feel better?", "Are you satisfied with child care?" .
The percentage of the mothers who answered that I had felt better when I had make up was 78.9%. Mothers who feel better when they make up were significantly associated with question items: "I think to be fashionable is to express myself" (r=.386, P<.001), and "My feelings of love have greatly increased since having a child." (r=.234, P<.001). This study suggests that most mothers like to put on makeup and those who feel good about it are likely to feel positive about themselves and take a positive attitude on child rearing.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：母親　養育　おしゃれ意識　チャイルド・マルトリートメント

１．研究開始当初の背景

「おしゃれ」とは、「戯れる（ざれる）」が語源である。この言葉はたわむれる、ふざける、気がきいている、風雅であるという意味を持つ(新村、1998)。橋本ら(2006)は、おしゃれの概念を「主に被服や化粧などの装飾や日常生活場面において、楽しさ、喜び、自己充実感などの快感情や他者からの好意的評価を得るなどして生活の質を高めるためになされる行為一般およびその志向性」としている。おしゃれは自分らしさの表現や生きがいとなる反面、所属集団に受容されるために不可欠で義務的なものとも考えられる(太田、1992)。そしておしゃれは心理的健康に対する意識とも相関する(尾田、2003)。

Bowlby(1969)は、愛着とは子どもと母親(主となる養育者)との情愛的つながりという。母親としての役割を果たせるのは重要他者(多くは夫)に認められながら子どもとの愛着を育み、授乳などの子どもとの接触を通してより母と子が相互に深めていくためである。

チャイルド・マルトリートメント（Maltreatment: 不適切な養育、かかわり）は子ども虐待と同義語として使用されている。アメリカ合衆国においてチャイルド・マルトリートメントの予防効果が実証されている Healthy Families America（以下 HFA）が取り組まれている。

２．研究の目的

（１）母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルトリートメントを含めた子どもの養育への認識との関連性を明らかにし、家族を支援する看護の示唆を得る。

（２）アメリカ合衆国においてチャイルド・マルトリートメント予防効果が実証されている HFA の研修を受け、チャイルド・マルトリートメントの予防法を考える。

３．研究の方法

（１）母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルトリートメントを含めた子どもの養育への認識の調査

静岡県Ａ市において1歳6か月児健診時に母親398名に自記式質問票を配布した。調査期間は2014年10月から2015年9月であった。質問項目はおしゃれ意識、子どもを養育している母親の気持ち（「愛着－養育バランス」尺度」)、食事摂取、睡眠、運動、身長、体重、体型認識、健康感、幸福感、憂鬱な気分、体調、就労、妊娠・出産・育児の満足度、相談相手、父親の育児参加、友人と会う機会、年齢、学歴、経済状況等であった。おしゃれ意識の質問項目は、「以前（第１子妊娠前）におしゃれに関心がある」「TPO（時、場所、場合）に応じた服装をする」「年齢にふさわしい服装をするように心がける」「流行の服を着る」「目立つ服が好き」「地味な服が好き」「おしゃれは自分らしさを表現する」「おしゃれをしたいと思う」「メイクをほぼ毎日している」「メイクをすると気分がよい」「メイクをするのが好き」「おしゃれをする時間がない」等26項目、4件法であった。選択肢は「当てはまる」:1、「どちらかというと当てはまる」:2、「どちらかというと当てはまらない」:3、「当てはまらない」:4であった。

武田らが開発した「愛着－養育バランス」尺度は、下記の①から⑥のように12項目、4件法であった。

①適応性・愛着「子どもへの依存」:「子どもに嫌われているように感じる」・「子どもに裏切られたように感じて悲しくなることがある」

②敏感性・愛着「自分への関心」：「自分のその時の気分で抱っこすることがある」・「育てにくいと感じることがある」

③親密性・愛着「自分に対する支え」：　「つらく感じて誰かに支えてもらいたい」・「気の休まることがなくてホッとしたい」

④適応性・養育「役割受容」：「子育ては大変ではあるが、それ以上にやりがいを感じる」・「母親であることが好きである」

⑤敏感性・養育「子どもへの関心と理解」：「子どもが何を求めているのかはわかる」・「自分と子どもはいい関係を保てていると思う」

⑥親密性・養育「子どもへの愛情と支え」：「子どもがそばにいるとホッとする」・「子どもを持って今までにないくらい愛する気持ちが強くなった」分析は単純集計、カイ二乗検定、スピアマンの順位相関を行い、有意水準は5%未満とした。

倫理的配慮に関しては浜松医科大学医の倫理委員会の承認（14-351）を受けた。

（２）HFA の研修受講とチャイルド・マルトリートメントの予防法の検討

HFA は1975年に小児科医ヘンリー・ケンプ博士とハワイの有志が創設した Hawaii Healthy Start（以下 HHS）が基盤となっている。その後1992年にアメリカ合衆国の Prevent Child Abuse America（PCAA）と Ronald McDonald House Charities が共同設立した。事業内容は児童虐待の予防を目的とした家庭訪問支援プログラムである。親子の愛着形成を助長させるプログラムであり、妊娠期からスタートすることにより、子ども虐待の早期発見に努め、予防につながる。本プログラムの優れている点は研究成果に基づいた 12 重大原則に絞っていることである。12重大原則に従って実施されるプログラムが図１である。

出産直後に支援が必要かどうかをふるいわけ項目

に沿ってふるいわける。そしてサービスの利用権利をもつ家族と判断されると無料の家庭訪問サービスが紹介され３～５年間支援を受ける。

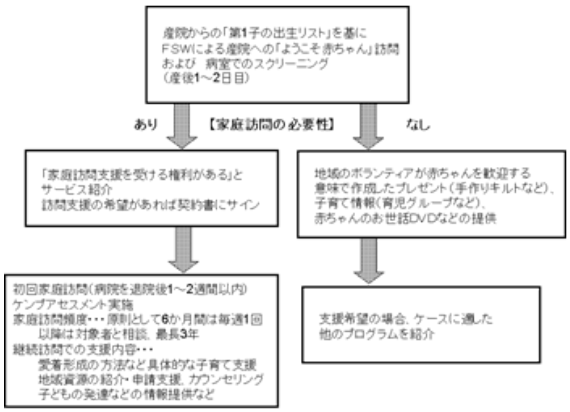
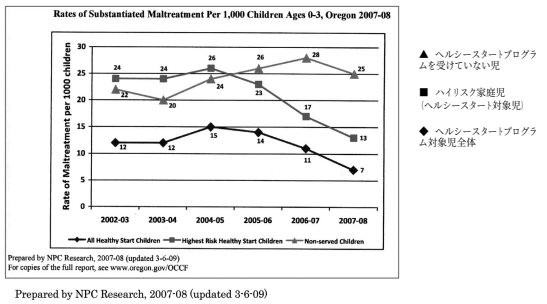


図1　Healthy Start Program の流れ

HFA の特徴の一つは父母の子育ての主体性や能力を尊重すること、家族のストレングスに焦点をあて、その上に積み上げていく（Strength Based Approach）支援方法である。予防的支援は親の能力を認め、親自身が自ら育っていくのを支援できる。これと対照的なものが家族の問題点に焦点をあて、専門家が原因を探して改善に取り組むよう指導する介入（Deficit Based Approach）である。問題発生後ではなく問題が発生する前から予防的支援を行うことは児童虐待件数を減少させる（図2）。



Prepared by NPC Research, 2007-08 (updated 3-6-09)

図2　オレゴン州における03歳児の児童虐待発生率の推移(対1000人)

幼少期に虐待の被害者だった子どもは脳の発達が逸脱するため、成長して大人になると虐待の加害者になり犯罪者になって刑務所に収容されることが多く、家庭内の子ども虐待は世襲することが報告されている。アメリカ合衆国のオレゴン州では、HFA のザービスは子ども一人に 2500 ドルかかるが、愛着障害を持った子どもが思春期に非行に走り少年院に行くと一人当たり１年に50,347 ドルかかる。また愛着関係が作れて幸福で健全な親子がオレゴン州民であることが望ましいという州議会の理解と応援があったと報告されている。これは誕生してくる人生の出発の時期から健康な親子になるように支援することが家族の幸福、コミュニティーの安心につながり、また社会的経済効果も大きいことが実証されている。安田と久保田は 2012 年 9 月、2014 年 3 月にアメリカ合衆国に HFA の研修に参加した。その後、静岡県 B 市において HFA の家庭訪問プログラムを取り入れたチャイルド・マルトリートメントの予防のための養育支援訪問者の育成と家庭訪問の実践を試みた。

４．研究成果

（１）母親のおしゃれ意識とチャイルド・マルトリートメントを含めた子どもの養育への認識の調査

分析対象は 261 名（回収率 65.6%）であった。平均年齢は 32.5 歳（標準偏差 5.0）であった。表１に母親のおしゃれ意識と子どもへの気持ち（愛着－養育バランス尺度）との関連を示す。

表1　母親のおしゃれ意識と子どもへの気持ち（愛着－養育バランス尺度）との関連

項目		妊娠前におしゃれに関心がある	TPOに応じた服装をする	年齢にふさわしい服装をするように心がけ	地味な服が好き	おしゃれは自分らしさを表現する	おしゃれをしたいと思う	メイクをすると気分がよい	メイクをするのが好き	おしゃれをする時間がない
適応性・愛着	子どもに嫌われているように感じる	-.136*	-.199**	-.163**	.212**	-.036	-.093	-.169**	-.133*	.149*
敏感性・愛着	子どもに責められたように感じて悲しくなることがある	-.087	-.109	-.101	.040	-.017	-.070	-.101	-.029	.043
	自分のその時の気分で怒ってしまうことがある	.010	-.062	-.041	.059	-.078	.086	-.047	-.035	.071
親密性・愛着	育てにくいと感じることがある	-.088	-.158*	-.155*	.229**	-.160**	-.004	-.079	-.143*	.173**
	つらい感じて誰かに支えてもらいたい	.039	-.104	-.111	.060	.029	.059	-.016	-.025	.250**
	気の休まることがなくてホッとしたい	-.014	-.195**	-.119	.066	.028	-.007	.021	-.032	.415**
適応性・養育	子育ては大変ではあるが、それ以上にやりがいを感じる	.125*	.089	.001	.084	.176**	.048	.164**	.140*	.017
	母親であることが好きである	.118	.087	.032	.049	.152*	.066	.162**	.159*	-.033
敏感性・養育	子どもが何を求めているのかはわかる	.163**	.214**	.111	-.030	.035	.124*	.141*	.070	.075
	自分と子どもはいい関係を保てていると思う	.200**	.267**	.237**	-.168**	.161**	.169**	.228**	.222**	-.134*
親密性・養育	子どもがそばにいるとホッとする	.112	.098	.069	.037	.080	.079	.062	.103	-.112
	子どもを待って今までにないくらい愛する気持ちが強くなった	.259**	.160**	.088	-.154*	.202**	.222**	.234**	.261**	-.093

本研究の結果は、適応性・愛着と敏感性・愛着は「地味な服が好き」、親密性・愛着と「おしゃれをする時間がない」と正の弱い相関を示している。これは母親としての不安を感じていると母親の子育ての満足感と幸福感は低いと考えられる。敏感性・養育と「以前（第１子妊娠前）におしゃれに関心がある」「TPO（時、場所、場合）に応じた服装をする」「年齢にふさわしい服装をするように心がける」「メイクをすると気分がよい」「メイクをするのが好き」、親密性・養育と「以前（第１子妊娠前）におしゃれに関心がある」「おしゃれは自分らしさを表現する」「おしゃれをしたいと思う」「メイクをすると気分がよい」「メイクをするのが好き」は正の弱い相関を示している。これは母親が子どもに保護や安心感を与えたり母親としての受容ができたりしているとおしゃれへの関心があったり自分らしさの表現をしていたりしていると考えられる。清水（2006）らは、母親が育児幸福感を感じる肯定的情動は愛情、喜び、感謝、安心、誇り、希望であり、「子どもの成長・発達・健康」、「子どものしぐさ」に感じており、育児をしている中での嬉しい・楽しい・幸せなことを語れる場を提供することが有効と述べている。今後は母親自身の語らいの場をつくるなどの方策の効果を検証することが必要である。

（２）HFA の研修受講とチャイルド・マルトリートメントの予防法の検討

①講演・家庭訪問員養成講座の実施

2013 年 10 月　ヘネシー澄子先生の講演実施（浜松市）

2013 年 10 月　家庭訪問員養成講座（浜松市）　養成人数は 10 人程度

内容：HFA 家庭訪問プログラムの理念と方法―12 重大原理に学ぶ―、親業プログラムの実際―怒りの感情をコントロール―、家庭訪問の実際長所を生かした支援―ロールプレイを通して―、家庭訪問の実際―脳の発達を促す遊び・おもちゃ作り―
②家庭訪問
2013 年 11 月から久保田、安田がケースの家庭訪問の準備をし、実施した。

５．主な発表論文等

〔学会発表〕（計　５　件）
①安田孝子：愛着―養育バランス尺度を用いた母親の気持ちと子育てに関連する要因、第 18 回日本母性看護学会学術集会、2016.6.18．福岡県、久留米市.

② Takako YASUDA, Toshiyuki OJIMA, Mieko NAKAMURA, Yosuke SHIBATA：Relationship between maternal depressed mood and mothers' feelings for their children using Attachment-Caregiving Balance Scale among Japanese women who raise their 18-month-old children. 18th International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, 2016.5.12-14, Malaga, Spain.

③安田孝子：１歳６か月の子どもを育てている母親の体調と関連要因、第 30 回日本助産学会学術集会、2016．3.19-20．京都市.

④安田孝子、尾島俊之、中村美詠子、柴田陽介：子育てをしている母親の就労とおしゃれ意識、第 28 回静岡母性衛生学会、2015.8.10．静岡市.

⑤安田孝子：妊娠前の体型と子育て中の女性のおしゃれ意識との関連、第 17 回日本母性看護学会学術集会、2015.6.28．東京都.

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
安田　孝子（YASUDA, Takako）
浜松医科大学・医学部・教授
研究者番号：30377733

(2)研究分担者
尾島　俊之（OJIMA, Toshiyuki）
浜松医科大学・医学部・教授
研究者番号：50275674

久保田　君枝（KUBOTA, Kimie）
聖隷クリストファー大学・助産学専攻科・教授
研究者番号：40331607

(3)連携研究者
中村　美詠子（NAKAMURA Mieko）
浜松医科大学・医学部・准教授
研究者番号：30236012
柴田　陽介（SIBATA Yosuke）
浜松医科大学・医学部・助教
研究者番号：20456578